

水産科



大きな海と豊富な水産資源
それが、我らの教材だ！

自然環境に恵まれた我が国にとって、河川・湖沼・海は、四季のある温暖な気候をもたらすとともに、豊かな水産資源の宝庫として、また、物資の輸送の場などとして、生活・文化に大きな影響を与えてきました。

水産科では、「海・水産物・船」を学習素材として、水産業に関することに加え、その生産現場である海洋についての専門的な知識と技術を実践的に学び、各種資格取得を通じ、将来の水産・海洋のスペシャリストを育てる教育をしています。



水産科の主な学科の学習内容

□海洋漁業関係学科

「漁業」や「航海・計器」など、船舶運航や漁業生産などについて学びます。

□海洋工学関係学科

「船用機関」や「機械設計工作」など、漁船をはじめ船舶のエンジンについて学びます。

□情報通信関係学科

「移動体通信工学」や「海洋通信技術」など、船舶通信をはじめとした無線通信について学びます。

□資源増殖関係学科

「資源増殖」や「海洋生物」など、養殖業や沿岸漁業など生物生産や資源管理について学びます。

□水産食品関係学科

「食品製造」や「食品管理」など、主に水産物を素材とした食品の製造や管理などについて学びます。

授業風景



実習船による漁業実習



ディーゼルエンジン実習



缶詰の製造実習



実験局での通信実習



サケの採卵実習



天体高度による船位測定実習

卒業生からのメッセージ



新日本海フェリー(株)
森 健輔さん
(島根県立隠岐水産高等学校
平成19年度専攻科修了)

私は現在、高校時代の夢をかなえ、日本海を縦断して北海道と関西を結ぶ長距離フェリーの航海士として勤務し、充実した日々を過ごしています。航海士という仕事は、船を運航し、安全かつ時間通りに、乗客や貨物を送り届ける、物流を担う重要な仕事です。

高校時代、実習船で日本海や遠くハワイ沖へ行き、航海・漁業実習を行う中で、漁業や船舶に関する専門知識や技術を身につけることができたおかげで、就職してからとても役立っています。

実践的な実習を行える充実した環境が専門高校にはあります。皆さんも小さい頃からの夢や興味のある仕事に就けるよう頑張ってください。

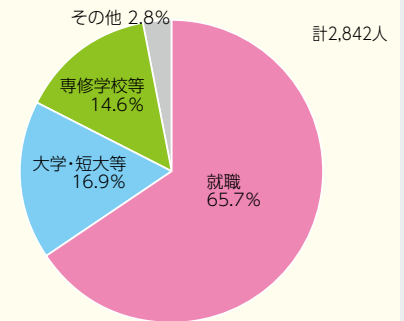


大都魚類(株)
原田 武範さん
(静岡県立焼津水産高等学校
食品科学科 平成17年度卒業)

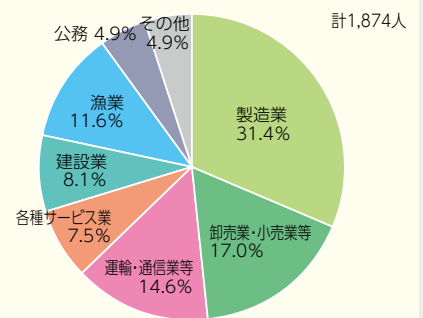
高校を卒業後、大学を経て、現在東京中央卸売市場築地の卸売会社でセリ人として働いています。築地では、日本を問わず世界各地から集荷した生鮮魚介類を、仲卸を通じて、すし店や日本料理店、量販店へ販売する仕事をしています。朝の2時からお昼ごろまで働く大変な仕事ではありますが、充実した日々を過ごしています。

私が水産高校を選んだ理由は、「とにかく海、魚が好き」で、特に魚を食べることが大好き、そんな単純な理由でした。高校時代、多くの魚を知り、そのさばき方や加工方法などを身につけたことは、仕事する上でも、一人暮らしをする上でも大変役立っています。

卒業後の進路



就職者の業種別内訳



文部科学省「学校基本調査」(平成28年3月卒業者)から作成。

在校生が目指す主な資格等

海技士(航海)|海技士(機関)|小型船舶操縦者|総合無線通信士|海上特殊無線技士|陸上特殊無線技士|潜水士|高等学校潜水技術検定|高等学校食品技能検定|高等学校栽培漁業技術検定|高等学校漁業技術検定|高等学校エンジン技術検定|高等学校海洋情報技術検定|高等学校水産海洋技術検定|高等学校通信技術検定|HACCP 基本技能検定 ほか